

一人一人の子供の現在及び将来の
豊かな生活につながる授業づくり

—個別の指導計画の作成と活用を通して—



平成15年1月

鹿児島大学教育学部附属養護学校

は じ め に

校 長 松 永 郁 男

平成 14 年は小柴昌俊・田中耕一両氏のノーベル賞のダブル受賞で国民全体を勇気づけてくれました。特にノーベル化学賞は白川英樹、野依良治博士に続き 3 年連続の受賞で、素晴らしいの一語に尽きます。

近年、不況・拉致・頻繁に起こる凄惨な事件事故等、暗い世相の中でこれほど国民に明るいニュースはなく、多くの人を勇気づけてくれました。

どんな暗い、あるいは辛い時代であっても研究の大きな成果は国全体を明るくしますし、また国民を勇気づけてくれます。戦後（1949年）の湯川英樹博士の物理学賞も「もうだめだ」という打ちひしがれた荒廃の中に「まだ頑張れる」という一筋の光明を国民に与えました。その後、1963年の朝永振一郎、1968年の川端康成、1973年の江崎玲於奈、1981年の福井謙一、1987年の利根川進、1994年の大江健三郎氏とノーベル賞受賞者ができる度に国民全体が勇気づけられてきた感がします。

それに比べ、教育の研究は非常に地味で、そのようなスポットライトを浴びることが極めて少ない分野で、教育に関するノーベル賞がないのは大変残念な気がします。日々、教育研究に取り組んでいる方々の努力をみれば、教育にもそれに匹敵するするものがあつたらと思うのは私だけでしょうか。

教育に身を置く者は必死に子供の明日を考え、その答えを求め模索し、研究を続けています。その中でも心身に障害のある子供を対象とする特殊教育現場では教師が保護者の切実な思いを身にひしひしと感じ、子供たちのことを人一倍考え、努力されているのではないかと思います。障害のある子供を持つ保護者の共通の思いは子供が何とか自立できないかと言うことではないでしょうか。また、特殊教育の現場に身を置く教師の思いも全く同じでしょう。本校でも思いは同じで、子供たちの自立や主体的行動を願い、教職員一体となって子供たちの幸せを考え、できる限りの努力を払い、悩み苦しみながら、今回の公開を迎えることになりました。

本校では平成 10 年度から、「わたしたちの教育実践を、一人一人の子供の現在及び将来の豊かな生活にいかにつなげていくか」というテーマを追究してきました。この度、研究主題を「一人一人の子供の現在及び将来の豊かな生活につながる授業づくり一個別の指導計画の作成と活用を通して」として、小学部では「意欲的な活動」、中学部では「主体的な活動」、高等部では「卒業後の生活を見据る」をそれぞれ大切した授業づくりという主題を設定し取り組んで来ました。

今回の取り組みの成果が、参加していただきました方々の要望にどこまで応えられ、納得していただけるかは分かりませんが、次への大きなステップために、忌憚のないご意見を頂けたらと思います。

今回の研究が参加して頂いた先生方の個別の指導計画作成や授業づくりに役立ち、自立を願う保護者の長年の苦勞に報い、次への大きな礎となる事を確信し、更なる飛躍の源となることを念ずる次第です。

最後になりましたが、今回の研究公開に際し、ご後援を頂きました鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、これまで研究推進に当たりお忙しい中、懇切丁寧なご指導を頂きました先生方に心から御礼を申し上げます。

総 目 次

はじめに	校 長 松永郁男	
第一部 研究基調		1
第二部 個別の指導計画の作成と活用		13
第三部 個別の指導計画を生かした授業づくり		29
小学部の実践		29
中学部の実践		57
高等部の実践		87
第四部 個別の指導計画を生かした実践事例		119
小学部の実践		119
中学部の実践		145
高等部の実践		165
第五部 研究のまとめ		189
おわりに	副校長 福田孝志	